

海外インターンシップ参加!

フィリピン バニラッドナショナルハイスクールで英語を用いて美術・数学を授業



造形表現学科3年 R.T.さん

海外インターンシップには、自分の力を試すための挑戦のつもりで参加しました。英語を話すことができればより多くの知見に触れることが可能になり自分の世界が広がります。私にはそれがとても魅力的に思え英語を学ぶことに力を入れるようになりました。また、教職課程を履修する中で自分の専攻分野である美術の教育方法を学び、今までは授業を享受していただけでしたが自分で授業を組み立てることに実感が湧きました。今まで培ってきた英語力と学んだ教育方法を実際に用いることで自分どこまでやり遂げることができるのか試してみたいと思い海外インターンシップに申し込みました。就業体験先は学校を選び、生徒が学ぶ場であることを念頭に責任を持って授業を行いました。

美術の授業を行った際に生徒に自分のオリジナルテキストを作ってもらいました。伝統工芸を学ぶ授業で自然からインスピレーションを受けた模様を描いてもらう内容を考え、格子状にラインが書かれたワークシートを製作しました。最初は指示がうまく伝わりませんでしたと言葉を変えたり、質問してくれたりして最終的には素敵な作品が仕上がりとっても嬉しかったです。生徒にとっても私にとっても第二言語



である英語を用いて助け合うことや理解し合うことができました。フィリピンの学校ではどの授業でもアクティビティを取り入れることが主流で、教えるべき授業内容から関連したアクティビティを考えることが面白かったです。

学びや経験を、どう活かしたいか?
一歩踏み出す力を成功体験とともに得ることができた

教える科目は美術だけのつもりでしたが、数年間勉強してこなかった数学の授業も英語で行うことになり最初は戸惑いました。しかし問題を理解し自分の言葉で伝えようと必死に準備をしたことで生徒に伝わる授業をやりきることができました。この経験は自分にとって大きなアドバンテージにつながりました。自信がない分野でもとにかくやってみる、一歩踏み出す力を成功体験とともに得ることができたので今後もどんなに難しそうなものでもまずは挑戦してみる、そこから自分の力でやり遂げることができるよう経験に自信を持って活動したいです。

今回のインターンシップを通して教育を受けることが決して簡単なことではないと理解しました。信号待ちをしているとたまたま乗っかっていても物乞いをするストリートチルドレン、授業でわからない内容があっても教科書が生徒に配布されていないため十分に復習することができない生徒。私は今自分がいかに恵まれた状況にあるのかを再確認し、自分の学びや得た知識を還元することができるようにさらに積極的に研究を進め多くのことを学びたいです。造形表現学科で美術という生涯にわたって自由に学ぶことができる学問を研究し、いつかこの学びを活かして世界中の子ども達それぞれが好きな世界を表現できるように美術を学ぶ環境を整備したいです。

大学生活での夢や目標、キャリアビジョンは?
この学びを活かして世界中の子ども達が好きな世界を表現できる環境を整備したい

今回のインターンシップを通して教育を受けることが決して簡単なことではないと理解しました。信号待ちをしているとたまたま乗っかっていても物乞いをするストリートチルドレン、授業でわからない内容があっても教科書が生徒に配布されていないため十分に復習することができない生徒。私は今自分がいかに恵まれた状況にあるのかを再確認し、自分の学びや得た知識を還元することができるようにさらに積極的に研究を進め多くのことを学びたいです。造形表現学科で美術という生涯にわたって自由に学ぶことができる学問を研究し、いつかこの学びを活かして世界中の子ども達それぞれが好きな世界を表現できるように美術を学ぶ環境を整備したいです。



就職内定・大学院進学決定!

医療法人 敬愛会 リハビリテーション天草病院・理学療法士
埼玉県立大学大学院 保健医療福祉学研究所
博士前期課程 リハビリテーション学専修



リハビリテーション学科 理学療法学専攻 N.K.さん

大学院で学びながら、病院に理学療法士として勤務



就職先病院を選んだのは?
脳血管疾患のリハビリテーションに特化した治療実績があった

以前から、私自身携わりたいと考えていた脳血管疾患のリハビリテーションに特化した治療実績を誇る病院を就職先に選びました。就職先の回復期病院に関しては、患者様の身体機能に対する治療だけでなく、今後の生活を見据えた上でのきめ細やかなサポート体制が整っているという点が魅力的であると感じています。また、研究を行うための環境や体制が整った病院でもあるため、臨床研究にも積極的に取り組んでいきたいと考えています。

大学生活の中で印象に残っている出来事は何?
評価学実習・臨床実習で理学療法士としてのやりがいと再認識できた

大学生活の中で印象に残っている出来事は、3年次から4年次の長期にかけて取り組んだ評価学実習・臨床実習です。患者様の身体機能の評価から治療の立案・実施までの一連の流れを経験しました。治療の中では、身体機能の回復に対し、患者様が喜ぶ姿を見て、理学療法士としてのやりがいを再認識することができました。また、これらの実習を通して自分自身どのような領域を専門として働きたいか、どのような患者様と関わっていきたく深く考えるきっかけにもなりました。

後輩たちへの就職活動アドバイス
実習は自身の将来について深く考えることができる貴重な機会

3・4年生になると長期の実習が増え、さらに忙しい生活になると思います。しかし、実習は自身の将来について深く考えることができる貴重な機会です。実習指導者の先生や先輩のセラピストからたくさん知識・技術を吸収し、是非自分なりの理学療法士としてのやりがいや仕事の魅力を見つけてください。就職活動だけでなく、理学療法士として働くことになった時にも、これまでの実習での経験が自身の力になると思います。

大学院進学を決めたのは?
研究領域から理学療法に関わってみたいと強く思った

臨床での経験に限らず、研究領域から理学療法に関わってみたいと強く思ったことが大学院進学を決めるきっかけになりました。理学療法では、臨床におけるセラピスト自身の治療技術の向上に限らず、研究によって疑問点を明らかにし、治療の根拠を確立させることも重要となります。そのことも踏まえ、将来は大学院で取り組んだ研究を臨床に還元し、リハビリテーション医療に貢献していきたいです。

リハビリテーション学科での学びをどう活かす?
病気で悩んでいる患者様の力になれるよう尽力していきたい

4年間の学生生活の中で、福祉用具の考案・製作といった貴重な経験をさせていただきました。また、卒業研究では先生の丁寧な指導のもと、私自身が希望していた歩行動作に関する研究に取り組みました。これらの経験を通して得た探究心は、今では私の強みになっています。就職後、理学療法士として働く際にも治療技術や専門知識に対する探究心を深めつつ、病気で悩んでいる患者様の力になれるよう尽力していきたいです。